

平成27年度群馬県立自然史博物館活動の評価について

群馬県立自然史博物館専門委員 清水 直樹

公共の博物館として約20年にわたって積み上げてきた数多くの資源（職員の専門性、資料など）を生かし、社会貢献活動を強化してもらいたい。特に専門知識を有する職員の方々は積極的に小、中、高校や大学、自治体、各種団体に講師として出向いてほしい。

平成27年度の講師派遣件数は17件で、前年度より11件少なかった。研究の成果を県民に還元するという意味からも、職員がさまざまな場面で講師を務め、「知を広める」役目を果たしてもらいたい。それは自然史博物館への関心を高め、入館者の増加につながっていくはずだ。

収集した資料の合計点数は1万417点で目標（6000点）を大きく上回った。資料の点数は順調に増えているが、収蔵スペースは満杯で通路にも置かれている。このため、資料活用時の運搬に時間がかかり、資料を破損する危険性が指摘されている。保管場所の確保は喫緊の課題であり、本腰を入れなければならない。それは資料寄贈者の期待に沿うことになる。

観覧者数は18万8680人で2年連続の増加となり、開館以来2番目に多い数字を記録した。趣向を凝らした企画展や積極的な広報活動の効果と言えるが、満足しないしてほしい。世界文化遺産の富岡製糸場や隣接する富岡市立美術館との連携をさらに深め、新規の入館者を増やしてもらいたい。広報活動は充実してきたが、もう一步踏み込んだ取り組みを検討してもらいたい。伸びしろは十分あると感じている。

（平成28年11月）